

キャラクター言語としての行為要求表現について： ジブリ作品の英語翻訳との比較を例に

著者	安井 寿枝
雑誌名	研究論集
巻	117
ページ	109-126
発行年	2023-03
URL	http://doi.org/10.18956/00008071

キャラクター言語としての行為要求表現について

— ジブリ作品の英語翻訳との比較を例に —

安井 寿枝

要旨

本稿は、『天空の城ラピュタ』『となりのトトロ』『もののけ姫』にみられる日本語の行為要求表現を整理し、その後、それらが英語翻訳でどのような英語表現になっているかを確認した。日本語としては、まず、命令形・命令形（文語文）・オクレ形が作品を特徴づける行為要求表現として使われていることが示された。次に、キャラクター言語としては、命令・依頼表現において、女性が使用する命令形に強さが、テ形に弱さが表現されており、さらに、テ形とオ+連用形・ナ形で子供と老人が表現されていることも示された。禁止表現においては、ダメ形が女性キャラクター、ナイ形・ナ形が男性キャラクターを表現しており、すべての禁止表現を使用するのは「女のヒーロー」であることもみてとれた。英語翻訳としては、テ形の翻訳において、命令文と区別するようにLet meとPleaseの使用でヒロイン像が表現されていることが示された。

キーワード：役割語、命令表現、行為要求表現、ヒーローの旅、ヒロイン

1. はじめに

拙稿（2021）では、『千と千尋の神隠し』をケーススタディとして、キャラクター言語が日本語ではどのように表現されているか、そして、それがどのような英語表現で翻訳されているかを分析した。日本語では、従来から述べられているように自称詞や対称詞の語形の違いによってキャラクターが表現されており、『千と千尋の神隠し』でもその特徴をみることができたが、英語では一貫してIとYouが使われていた。一方、行為要求表現では英語においてもキャラクターを表現していると思われるものがあり、日本語でクダサイ形を多用する登場人物に、英語でPleaseを多用させているという例が確認された。そこで、本稿では『千と千尋の神隠し』以前のジブリ作品内にみられる行為要求表現に注目して、キャラクター言語としての日本語の行為要求表現を整理したのち、キャラクター言語として使用されている行為要求表現がどのような英語表現で翻訳されているかを分析したい。

『千と千尋の神隠し』は、2001年に公開された作品で、宮崎駿が原作・脚本・監督を担当しているため、本稿で対象とする作品も宮崎駿が原作・脚本・監督を行っている作品とする。対象作品は、スタジオジブリ公式ホームページで確認した2001年以前に公開された3作品¹⁾、『天

『空の城ラピュタ』²⁾(1986年公開)、『となりのトトロ』³⁾(1988年公開)、『もののけ姫』⁴⁾(1997年公開)である。

2. 日本語にみられる行為要求表現

本稿では、相手に何らかの行為を要求するものを行為要求表現とし⁵⁾、行為の実現を目的としたものを命令・依頼表現、行為の阻止を目的としたものを禁止表現とした。対象とする台詞は、吹き出しになっているもので、発話者以外の台詞を引用したものは扱わない。

2. 1 『空の城ラピュタ』の行為要求表現

『空の城ラピュタ』に使用されている行為要求表現を登場人物ごとにまとめたものが、表1・表2である。女性の登場人物では、シータがテ形、ドーラがナ形(「だしな」「かわりな」など)を多用することでキャラクターが表現されている。男性の登場人物では、すべての登場人物が命令形をもっとも多く使用しているなかで、パズーのみテ形をもっとも多く使用していることが特徴である。表2のなかで子供はパズーのみであり、パズーの年齢とも関係していると考えられる。フィルムコミックの登場人物紹介では、パズーが「少年」、シータが「少女」と説明されていることから、「少年」「少女」というキャラクターがテ形を多用する要因であると予想される。次に、特徴的なキャラクターはムスカである。ムスカは、他の登場人物と比べると命令・依頼表現の種類が9種類と多く、なかでもタマエ形(「きたまえ」「ふせていたまえ」など)・ホシイ形(「協力してはし

表1 女性(空の城ラピュタ)

シータ	テ形 (18) 〇形 (1)	禁止ダメ形 (3)
ドーラ	ナ形 (24) オ+連用形 (7) ノダ形 (5) 命令形 (4) 〇形 (3) テ形 (2) ナイカ形 (2) 終止形 (1) ウ形 (1)	禁止ナ形 (1) 禁止ナイ形 (1)
おかみさん	オ+連用形 (2)	

表2 男性(空の城ラピュタ)

パズー	テ形 (13) 命令形 (7) ウ形 (5) クダサイ形 (1) クレ形 (1) ナ形 (1) ナイカ形 (1)	禁止ナ形 (1)
ムスカ	命令形 (20) タマエ形 (12) クダサイ形 (2) ホシイ形 (2) クレ形 (1) ウ形 (1) 〇形 (1) ノダ形 (1) よろしい (1)	禁止ナ形 (2) 禁止お忘れなく (1)
ドーラの息子	命令形 (8) テ形 (1) ノラオウ形 (1) ウ形 (1)	禁止ナイ形 (2)
ボムじいさん	オ+連用形 (1) ナ形 (1) ナイ形 (1)	
親方	命令形 (6) ナ形 (1) 〇形 (1)	禁止ナイ形 (2)
機関手	命令形 (3) クレ形 (1)	
将軍	命令形 (7)	禁止ナ形 (2)
黒めがね	命令形 (2) 終止形 (1)	
軍人	命令形 (19)	禁止ナ形 (1)
村人など	命令形 (2) クレ形 (1)	禁止ナ形 (1)

括弧内は用例数

い」「手をひいてほしい)・「閣下は兵隊を必要な時に動かしてくださいればよろしい」はムスカのみが使用する表現である。とくにタマエ形は、12例もの用例が確認でき、ムスカのキャラクター言語といえよう。藤本真理子(2014:122)によると、タマエは「一部、上層階級意識が強く戯画的に誇張して描かれる少年に使われる例は確認できる。これはその少年が多数の少年仲間の中で優位に立つために、または優位に立つ者として描かれるために用いられる」とされている。ムスカは、ラピュタの王家の一族であり、ラピュタの力で人間を支配することを目論む人物である。このようなキャラクターを強調するためにタマエ形が多用されているといえよう。また、命令・依頼表現の種類では、ドーラも9種類の使用が確認できる。これは、金水敏(2017:243-246)に規定される「ヒーローの旅」というテンプレートに登場するキャラクターが関係していると考えられる。金水(2017:246)では、「ヒーローの旅」の登場人物を3つのクラスに分けており、「メンター、同調者、敵対者、トリックスター、変貌者、影といったアーキタイプに属する重要なキャラクター」を「クラス2」としている。シータやパズーに対して、ムスカは「敵対者」、ドーラは「メンター(指導者)」である。クラス2に分類される登場人物は、金水(2017:246)によれば「言葉の面では、典型的な役割語(標準語を含む)が用いられる場合が多いが、一方で、通常の役割語からずらしたり、重ねたり、あるいはまったくそれまでに例のないユニークな話し方をさせる場合もある」とあり、ムスカやドーラの命令・依頼表現の種類が多いのは、クラス2であることが影響していると考えられる。また、ムスカは、禁止表現においても特徴が見られ、他の登場人物にみられない次のような禁止表現が確認できる⁶⁾。

(1)「もちろん わたしが政府の密命を うけていることも お忘れなく」(二46)

(1)は、ラピュタ探索の指揮官で、軍から派遣された将軍に対して発せられたものである。他の台詞に注目すると、基本的にムスカは将軍に対して丁寧体、将軍はムスカに対して普通体を使用していることから、将軍が上位者であると考えられる。しかし、ムスカは自身がラピュタの王家の一族であることから、本心では将軍を上位者として考えていない。ヒーローに対してのみならず、すべての登場人物に対しての敵対者であるムスカのキャラクターが禁止表現に現れているといえよう。

2.2 『となりのトトロ』の行為要求表現

『となりのトトロ』に使用されている行為要求表現を登場人物ごとにまとめたものが、表3・表4である。全体として『となりのトトロ』は、命令形の使用が少ないことが特徴である。女性の登場人物では、サツキとメイはテ形を多用し、おばあさんはナ形を多用していることが確認できる。おばあさんのみにもみられる形式は、オ+連用形とオクレ形である。また、禁止表現

のナイ形は「落さんで」や「泣くでねえ」と訛音になっていることも特徴だが、おばあさんの孫であるカンタの行為要求表現以外に訛音の使用が確認できることから、クラス2の登場人物が影響しているとはいいがたく、訛音はサツキとメイの転居地が地方であるという特色を表現していると考えられる。男性の登場人物では、サツキとメイの父親が多様な行為要求表現を用いていることがわかる。ただし、父親が使用する行為要求表現は特別なものではない。父親が使用する行為要求表現は、〇形の1例を除き、すべてサツキとメイに対して使われている例である。高橋美奈子（2016：219）にあげられている自然談話の行為要求表現では、親から子に対してナサイ形・テ形・クレ形・ナ形が確認できる。高橋（2016）の用例に命令形が見られないのは、「動詞命令形の使用は夫婦3例と姉から妹への1例に限られており、また、その命令形も「～しろ」や「言え」のように終助詞なしで単独で使われた例は皆無である」（p. 218）ためである。表4にみられる父親の命令形の例「がんばれがんばれ」は、村上三寿（1993：107-109）にあげられている「語彙的に固定化されていて、抽象的なはげましの表現」で「命令文の非命令的な使用」である。また、高橋（2016）にウ形⁷⁾がないのは、「共同動作の申し出（勧誘）」（益岡・田窪（1992：125））による行為要求が行われなかったためであり、親から子に対してウ形を使うのが不自然なためではないといえ、サツキとメイの父親が使用する要求表現は、自然談話と差がないものだと考えられる。

表3 女性（となりのトトロ）

サツキ	テ形 (10) 〇形 (4) クダサイ形 (3) ナ形 (3) 命令形 (1) ゴラン形 (1)	禁止ダメ形 (2)
メイ	テ形 (6)	
おばあさん	ナ形 (4) 命令形 (2) オ+連用形 (1) テ形 (1) クレ形 (1) オクレ形 (1) ウ形 (1)	禁止ナイ形 (2)
本家	ナ形 (1)	

表4 男性（となりのトトロ）

カンタ	命令形 (1)	
父さん	ウ形 (2) ナサイ形 (2) 命令形 (2) テ形 (1) クレ形 (1) ナ形 (1) 〇形 (1)	

括弧内は用例数

2. 3 『もののけ姫』の行為要求表現

『もののけ姫』に使用されている行為要求表現を登場人物ごとにまとめたものが、表5・表6・表7である。全体として『もののけ姫』は、命令形の使用が多いことが特徴である。また、命令形には次のような文語文のものが確認できる。

- (2) エボシから石火矢衆に対して「十分に 引きよせよ」（一153）
- (3) エボシから石火矢衆に対して「みな よく 見とどけよ」（五78）

- (4) ジコ坊から唐傘に対して「お前達 先に行き 潜んでおれ」(四11)
 (5) ジコ坊から唐傘に対して「そろそろ 動く みなにも そう伝えよ」(四15)
 (6) 乙事主からシシ神に対して「シシ神 いでよ」(五9)

表5 女性(もののけ姫)

サン	命令形 (8) テ形 (7) オ+連用形 (4) ナ形 (4) ウ形 (2) オクレ形 (1)	禁止ダメ形 (3) 禁止ナ形 (2)
エボシ	命令形 (15) ナサイ形 (5) オクレ形 (3) ウ形 (3) ナ形 (2) ナイ形 (1) やるがいい (1)	禁止ナ形 (6) 禁止ナイ形 (1)
ヒイ様	ナサイ形 (2) 命令形 (1) オ+連用形 (1) タマエ形 (1)	
カヤ	クダサイ形 (1)	
トキ	〇形 (2) 命令形 (1) テ形 (1) オクレ (1) ナ形 (1) ナイ形 (1) ノダ形 (1)	禁止ナイ形 (2) 禁止ダメ形 (1)
キヨ	オ+連用形 (1)	
タタラの女性	〇形 (5) ナ形 (4) テ形 (3) 命令形 (1) クダサイ形 (1) ウ形 (1)	禁止ダメ形 (2)
米売りの女性	オクレ形 (1) ナ形 (1)	

表7 神(もののけ姫)

モロ	命令形 (4) オ+連用形 (1)	
山犬	命令形 (2) テ形 (1) ウ形 (1)	
乙事主	命令形 (5) オクレ形 (1) ウ形 (1)	
猩々	命令形 (4)	

表6 男性(もののけ姫)

アシタカ	命令形 (35) クレ形 (10) ウ形 (4) タマエ形 (3) ナサイ形 (2) クダサイ形 (1) オクレ形 (1) ゴラン形 (1) ナ形 (1) ナイ形 (1) 〇形 (1)	禁止ナ形 (9) 禁止ナイ形 (1)
ゴンザ	命令形 (10) 終止形 (1) ナ形 (1) ナイ形 (1)	禁止ナ形 (3)
ジコ坊	命令形 (18) ナサイ形 (3) テ形 (2) 終止形 (1) クレ形 (1) 〇形 (1)	禁止ナ形 (5)
甲六	命令形 (1) クレ形 (1) ウ形 (2)	禁止ナ形 (1)
石火矢衆の長	オクレ形 (1)	
石火矢衆	〇形 (4) ウ形 (1) ナ形 (1)	
牛飼い		禁止ナ形 (1)
唐傘	命令形 (8)	
ジバシリ	命令形 (2)	
田舎侍	命令形 (5)	禁止ナ形 (1)
タタラの男性	命令形 (9) クダサイ形 (2) ナイ形 (2) ナ形 (1)	禁止ナ形 (3)
じいじ		禁止ナ形 (1)
アシタカの村の男性	〇形 (1)	禁止ナ形 (1)

括弧内は用例数

このような文語文の命令形は『天空の城ラピュタ』や『となりのトトロ』に確認できず、『もののけ姫』全体の特徴といえる。『もののけ姫』のオープニングには、「むかし、この国は深い森におおわれ、そこには太古からの神々がすんでいた。」と字幕が付されており、「太古」という舞台を表現するために文語文が使用されていると考えられる。「太古」を表現している行為要求表現には、アシタカやヒイ様が神に対して使用する「鎮まりたまえ」も含まれ、ムスカの使用キャラクター言語とは異なるものである。

女性の登場人物では、サンが命令形とテ形を多用すること、エボシが命令形とナサイ形を多用することが特徴であるが、女性の登場人物として異質な、犬神であるモロに育てられたサンについて、その他の女性との差は確認できない。テ形はトキヤタラの女性も使用するが、エボシは使用しない。一方、ナサイ形は、ヒイ様が使用し、その他の女性の登場人物が使用しないことから、村の長が使用する行為要求表現だといえよう。そして、テ形は、村の長の行為要求表現として避けられていると考えられる。また、女性の登場人物ではエボシのみが禁止ナ形を使用している。禁止ナ形は、多くの男性の登場人物が使用しているため、『もののけ姫』内では男性的な禁止表現だといえる。エボシは、フィルムコミックの登場人物紹介で「タタラ場を仕切る女丈夫」と書かれており、タタラの女性に対して「男は頼りにできない」と述べていることから、男性と肩を並べる存在である。そのような女性キャラクターを表現するために、禁止ナ形が使用されているといえよう。男性の登場人物では、アシタカの命令形の多用と種類の多さが際立っている。『もののけ姫』は人間と神との争いが描かれており、アシタカは唯一どちらにも加担せず、中立にあるといえる。アシタカが使用する命令形でもっとも多いものは「やめろ」であり、両者の争いを止める中立の役割が命令形の多さに影響していると考えられる。一方で、行為要求表現の種類の高さには注意を要す。アシタカは「ヒーローの旅」の「ヒーロー」にあたるといえ、金水（2017:246）によれば、主人公にあたる「クラス1」は、「受け手の自己同一化はこのクラスのキャラクターに誘導しなければならないので、あまり奇抜な特徴づけは行われない場合が多い。したがって言葉遣いも、標準語を基調とする、役割語度の低い話し方となることが多い」とされているが、『もののけ姫』ではアシタカがもっとも多様な行為要求表現を使用しており、『天空の城ラピュタ』のムスカやドーラと同じ特徴を持つといえる。ただし、アシタカのみが使用する行為要求表現はゴラン形のみであることから、奇抜な特徴づけはされていないといえ、アシタカの行為要求表現の多様性が必ずしもキャラクターを表現しているとはいえないことがわかる。神では、特徴的な使用が見られず、行為要求表現においては、神と人間が同じ存在として描かれている。『もののけ姫』では、神と人間が同じ立場の存在として描かれることで両者が争うという構造が示されている。

2. 4 キャラクター言語としての行為要求表現

本節では、『天空の城ラピュタ』『となりのトトロ』『もののけ姫』で確認された特徴から、キャラクター言語としての行為要求表現について考察する。拙稿（2021）では、『千と千尋の神隠し』の行為要求表現は、「命令形を多用することで油屋の世界を表現しながら、テ形の多用で現実世界との均衡を保ち「どこかでありそうな話」を表現している」（p. 48）とした。『天空の城ラピュタ』では男性の登場人物の多くが命令形を多用し、『もののけ姫』では男性に加えて、神とサンとエボシが命令形を多用している様子がうかがえた。沖裕子（2014：18）では、「東京共通語では、接辞テを添えた、「ハヤク イッテ」や、省略せず「ハヤク イッテクダサイ」と述べるのが、〈弱い命令〉になる。現代日本語では、こうした〈弱い命令〉を表す//命令表現//が主流で、動詞命令形を用いた〈強い命令〉は、出番がほとんどない⁸⁾とされ、高橋（2016）や小林美恵子（2003）でも、家族間や職場で命令形をほぼ用いないことが指摘されている。このことから、『天空の城ラピュタ』『もののけ姫』『千と千尋の神隠し』において命令形が多用されているのは、作られた台詞の特徴だといえる。一方で、同じく虚構である『となりのトトロ』では命令形の多用が確認されなかったことに注目したい。金水（2019：76）では「ヒーローの旅」のテンプレートを次のようにまとめている。

- (7) 日常の生活をしてきた主人公（ヒーロー）が「冒険への呼び出し」をきっかけに旅に出る羽目になるが、最初はためらいを見せる。指導者（メンター）が現れて主人公を勇気づけ、道具や知恵を与えたりする。旅の途中でいくつもの関門をくぐり抜け、その過程で同調者や敵やトリックスターや変貌者（性格や気分が変わってつかみ所のない人物）に出会う。最後に最大の敵「影」と対峙し、これを打ち破って帰還の途に就くが、途中で死ぬような目にも遭う。最後はもとの日常に戻るか、新しい安住の地へと至る。

金水（2017・2019）では、『風の谷のナウシカ』『千と千尋の神隠し』を「ヒーローの旅」としている。加えて、『天空の城ラピュタ』『もののけ姫』も「ヒーローの旅」に準ずると考えられる。一方、『となりのトトロ』は「ヒーローの旅」のテンプレートに合致するとはいえず、「ヒーローの旅」であることが命令形の多用に繋がると考えられる。「ヒーローの旅」では、日常から離れ、旅に出て敵対者と対峙するような事件が起きるため、日常談話では稀な命令形が多用されるのではないだろうか。日常談話では、一般的に行為要求表現に配慮が含まれるため、命令形が避けられる傾向にあるが、「ヒーローの旅」では敵対者に対して配慮する必要がない。たとえば、『天空の城ラピュタ』ではムスカがシートとパズーに対して、『もののけ姫』ではサンがアシタカに対して、『千と千尋の神隠し』では湯婆婆が千尋に対して、命令形を使用することで敵対している様子が表現されている。さらに、命令形を女性が使う場合は、キャラク

ターを表現しているといえる。『天空の城ラピュタ』ではドーラ、『となりのトトロ』ではサツキとおばあさん、『もののけ姫』ではサン、エボシ、ヒイ様、トキ、タタラの女性が命令形を使用している。彼らの多くは、働く女性、戦う女性、男性と対等な女性であり、そのような強さの象徴として命令形が使用されていると考えられる。米井力也（2011：175）は、『風の谷のナウシカ』のクシャナについて、「占領軍司令官として部下に命令を下すときもナウシカたち風の谷の人々に語りかけるときも一様に〈男性語〉を用いる。命令・依頼表現は「やめろ」「言わせてやれ」「参加せよ」「まちがえるな」「動くな」「焼き払え」などのように命令形を用いる点で一貫している」ことを指摘し、クシャナはヒロインではなく「女のヒーロー」だとしている。本稿において確認された命令形を多用する女性の登場人物では、サンとエボシが「女のヒーロー」に当たる。一方で、おばあさんの使用する命令形は、訛音と同様に地方という舞台を強調しているといえよう⁹⁾。

命令形と対照的に使用されているのが、テ形である。テ形を多用する登場人物は、『天空の城ラピュタ』のシータとパズー、『となりのトトロ』のサツキとメイであり、「女のヒーロー」には当たらない女性キャラクターがテ形を多用するといえよう。金水（2017：250）で『風の谷のナウシカ』が「普段は命令形を用いず、「まって」などテ形の依頼形を用いるなど、基本的に〈女ことば〉の類型に含められる」としていることから、テ形を用いる人物には女性らしさが伴うといえる。また、パズーを含めると彼らに共通するのは年齢である。それぞれのフィルムコミックの登場人物紹介をみると、シータとパズーは「少女」「少年」、サツキは「小学4年生」、メイは「4歳」であり、子供の使用する行為要求表現としてテ形が選択されていると考えられる。

テ形と対照的に老人を表すキャラクター言語として使用されているのは、オ+連用形とナ形である。オ+連用形を使用するのは、『天空の城ラピュタ』のドーラ、おかみさん、ポムじいさん、『となりのトトロ』のおばあさん、『もののけ姫』のサン、ヒイ様、キヨ、モロであり、多くが老人である。ナ形を使用するのは、『天空の城ラピュタ』のドーラ、パズー、ポムじいさん、親方、『となりのトトロ』のサツキ、おばあさん、父さん、『もののけ姫』のサン、エボシ、トキ、タタラの女性、米売りの女性、アシタカ、ゴンザ、石火矢衆、タタラの男性である。オ+連用形を使用するのは老人が多く、特に、ポムじいさんは「わし」「おる」「じゃ」を使用していることから、典型的な〈老人語〉を使う人物である。また、老人ではないおかみさんやキヨがオ+連用形を使用するのは、次のような台詞であり、命令形と同じく強い女性が表現されている。

(8) おかみさんからパズーに対して「このすきに 裏から お逃げ!!」(一86)

(9) キヨからアシタカに対して「おまち!!」「逃がしゃしないよ」(三55)

(10) のように、ドーラが使用するオ+連用形も、老人であると同時に強さを表現している。ただし、女性でオ+連用形を使用する人物は、ポムじいさんのように〈老人語〉を使用せず、〈老人語〉を使用しないことが、老人と強さの共存を許容しているといえよう¹⁰⁾。

(10) ドーラが息子に対して「このバカ息子ども サッサとおのり！！」(一103)

一方、神であるモロも強さを兼ね備えていると考えられるが、モロが使用するオ+連用形は強さを表現しているよりも、優しさを表現しているとみられる。

(11) モロから山犬に対して「お前達は サンと お行き」(四70)

モロの強さは命令形で表現されているため、オ+連用形で優しさを表現していると考えられる。そして、モロに育てられたサンも命令形で強さを、オ+連用形で優しさを表現し、山犬との上下関係も示されている。

(12) サンから山犬に対して「おやめ！！」(三91)

(13) サンから山犬に対して「お行き 山犬の血を とだえさせちゃ だめ」(五11)

ナ形は多くの登場人物が使用するが、2. 1節で確認したとおりドーラのキャラクター言語である。ドーラは主人公であるパズーとシータの「メンター（指導者）」であることから、命令形よりナ形を多用すると考えられる。

次に、クダサイ形・クレ形・オクレ形に注目する。それぞれの使用をまとめると表8になる。佐藤里美（1992：153）では、「《してくれ》の文は、原則として、話し手が男性にかぎられるのに対して、《してください》の文の話し手は、男性でも、女性でもかまわない」としている。表8を確認すると、クレ形は、『となりのトトロ』のおばあさんを除いて、すべて男性の例（網掛け）であり、特徴的な使用とはいえない。女性で唯一おばあさんが

表8 クダサイ形・クレ形・オクレ形

作品	人物	クダサイ形	クレ形	オクレ形
ラピユタ	パズー	○	○	
	ムスカ	○	○	
	機関手		○	
	村人		○	
トトロ	サツキ	○		
	おばあさん		○	○
	お父さん		○	
もののけ姫	サン			○
	エボシ			○
	カヤ	○		
	トキ			○
	タタラの女性	○		
	米売りの女性			○
	アシタカ	○	○	○
	ジコ坊		○	
	甲六		○	
	石火矢衆の長			○
タタラの男性	○			
乙事主			○	

クレ形を使用しているのは、命令形と同様に地方を表現しているといえよう。クダサイ形は、作品によってキャラクター言語となっている場合となっていない場合があると考えられる。『となりのトトロ』では、子供あるいは女性のキャラクター言語といえるが、『天空の城ラピュタ』や『もののけ姫』では、特定のキャラクターを表現するとはいえない。一方で、オクレ形が多用されているのは『もののけ姫』である。オクレ形は、拙稿(2021)の『千と千尋の神隠し』にも確認できたことから、神と共存している世界の人物が使用するキャラクター言語といえそうである。

最後に、禁止表現についてまとめたい。禁止表現は種類が少なく、禁止ダメ形・禁止ナイ形・禁止ナ形が三作品に共通する形式である。それらの使用をまとめると表9になる。まず、男性(網掛け)は禁止ダメ形を使用しないことが特徴であり、禁止ダメ形は女性のキャラクター言語である。そして、女性の登場人物では、禁止ダメ形のみを使用する人物、禁止ナイ形・ナ形のみを使用する人物、禁止ダメ形と禁止ナイ形・ナ形を使用する人物に分けられ、禁止ダメ形のみを使用するのは『天空の城ラピュタ』のシータ、『となりのトトロ』のサツキ、『もののけ姫』のタタラの女性である。このことから、中心人物が禁止ダメ形を使用する場合はヒロインというキャラクターを表現し、禁止ナイ形・ナ形のみを使用する場合は強い女性(ドーラやエボシ)というキャラクターを表現するといえよう。そして、注目すべきは、禁止ダメ形と禁止ナイ形・ナ形の両方を使う『もののけ姫』のサンである。米井(2011:178)は、『風の谷のナウシカ』のナウシカについて、「〈男性語〉と〈女性語〉を使い分ける「女のヒーロー」にほかならない」としている。禁止表現においては、サンも〈男性語〉と〈女性語〉を使い分ける「女のヒーロー」といえ、『もののけ姫』は『風の谷のナウシカ』と同様に、2人の「女のヒーロー」が登場し、それぞれが己の信じる道を進むストーリーとなっている。異なるのは、「ヒーローの旅」における位置づけである。『風の谷のナウシカ』は「女のヒーロー」であるナウシカが「ヒーローの旅」の主人公だが、『もののけ姫』はサンが「ヒーローの旅」の主人公ではなく、アシタカが「ヒーローの旅」の主人公である。

表9 禁止ダメ形・禁止ナイ形・禁止ナ形

作品	人物	ダメ形	ナイ形	ナ形
ラピュタ	シータ	○		
	ドーラ		○	○
	パズー			○
	ムスカ			○
	ドーラの息子		○	
	親方		○	
	将軍			○
	軍人 村人など			○
トトロ	サツキ	○		
	おばあさん		○	
もののけ姫	サン	○		○
	エボシ		○	○
	トキ	○	○	
	タタラの女性	○		
	アシタカ		○	○
	ゴンザ			○
	ジコ坊			○
	甲六			○
	牛飼い			○
	田舎侍			○
タタラの男性			○	
じいじ			○	
アシタカの村の男性			○	

3. 英語翻訳の特徴

本節では、2節で確認した日本語の行為要求表現が英語翻訳でどのような形式になっているかを確認したい。2節では、命令形を使う女性は強い女性であること、テ形を使うのは女性らしさ、あるいは子供を表現していること、オ+連用形とナ形を使うのは老人であることが確認された。また、クダサイ形・クレ形・オクレ形は、三作品をとおして、クダサイ形が子供や女性、クレ形が男性の特徴となっており、オクレ形が『もののけ姫』の特徴であることを確認した。禁止表現では、禁止ダメ形がヒロイン、禁止ナイ形・禁止ナ形が男性あるいは強い女性、すべてを使うのは「女のヒーロー」であることを確認した。以下では、これらが英語でどのように翻訳されているかを確認する。

3. 1 命令形とテ形の翻訳

主要な女性の登場人物が使う命令形とテ形が、どのように翻訳されているかを作品ごとにまとめると表10になる。日本語の意味と異なる訳となっているもの¹¹⁾や動詞を使用していないもの¹²⁾は〇とした。

表10 命令形とテ形の翻訳

	ラピュタ		トトロ			もののけ姫		
	シータ	ドーラ	サツキ	メイ	おばあさん	サン	エボシ	トキ
命令形	/	命令文	命令文	/	命令文 Let	命令文	平叙文 命令文 Let Don't 〇	〇
テ形	平叙文 命令文 Let Please	命令文	平叙文 命令文 Let Please 疑問文	命令文 Let	命令文	平叙文 命令文 Don't	/	命令文

まず、命令形は命令文で翻訳されることが一般的だといえる。個別の特徴としては、『もののけ姫』のエボシの使用する種類が多いことがあげられ、命令文に加えて、平叙文、Let、Don'tの例がみられる。それぞれの発話は以下のとおりである。

(14) エボシからジコ坊に対して「受けとれ 約束の首だ」(五96)

「HERE IT IS, AS PROMISED—ONE HEAD !」(五94)

- (15) エボシからゴンザに対して「隊列を 組み直せ！！」(二9)

「LET'S GET THE LIVING HOME.」(二7)

- (16) エボシから牛飼いに対して「牛を 落ちつかせろ」(一152)

「DON'T LET THE OXEN PANIC！」(一150)

高橋英光(2017:16-18)は、アメリカ人作家による四作品の会話で用いられたすべての命令文を調査し、動詞の使用頻度を示している。その結果によれば、Let'sの使用頻度がもっとも高く、「let'sは命令文専用の助動詞」で「話者と聞き手の共同行為(例えば“Let's go!”)を典型的に示唆する点で通常の命令文と異なる」(p.19)としている。しかし、(15)はエボシとゴンザの共同行為とはいえない。このような使用について、高橋(2017)は、「let's命令文の80%近くは共同行為のためだが、聞き手のみの行為と談話構成用法がそれぞれ約10%あり話者のみの行為の使用は非常に稀、となる」(p.20)とし、聞き手のみの行為に使う場合は、「話し手は「共同行為」として概念化することで口調を和らげている」(p.21)としている。(15)の発話の直前にエボシ一行は、モロの襲撃に遭い、牛飼いを何人か亡くしている。仲間を亡くした牛飼いに命令文を使うと非情な印象を与えるため、英語においてLet'sが選択されたのであろう。一方、(16)は明確に使役を表しており、『となりのトトロ』のおばあさんが使用する以下の発話と同じだといえる。

- (17) おばあさんからカンタに対して「電話かして もらえ」(四25)

「…AND LET HER USE THE PHONE.」(四23)

テ形の翻訳では、命令文に加えて、平叙文、Let、Don't、Pleaseがみられる。とくに、『天空の城ラピュタ』のシータは、LetとPleaseを多用している。以下がその使用である。

- (18) 黒めがねに対して「はなして」(二41)

「LET ME GO！」(二39)

- (19) ムスカに対して「パズーは！？ パズーに会わせて！！」(二46)

「WHERE'S PAZU！？ LET ME SEE HIM！！」(二44)

- (20) ムスカに対して「…パズーに 会わせて」(二55)

「…PLEASE LET ME SEE PAZU！」(二53)

- (21) ロボット兵に対して「はなして！！」(二134)

「LET ME GO！！」(二132)

- (22) ロボット兵に対して「お願い それを こわさないで それがないと 帰れなくなるの」
(三132)

「PLEASE DON'T BREAK THAT. WE NEED IT TO GET HOME.」
(三130)

- (23) 扉に対して「おねがい ひらいて！！」(四110)
「PLEASE, OPEN！」(四108)

(18) ～ (21) は、シータ自身にはどうすることもできない状況で、敵対する相手にテ形を使用している場面である。以下のような『となりのトトロ』の Let と Please の使用と併せて考えると、Let me と Please が発話者の弱さを表しているといえる。

- (24) サツキから森に対して「トトロの所へ 通して」(四90)
「LET ME IN TO SEE TOTORO.」(四88)

- (25) サツキからトトロに対して「お願い メイを捜して」(四95)
「PLEASE HELP ME. I HAVE TO FIND HER.」(四93)

- (26) メイからサツキに対して「見せて！！」(一42)
「LET ME SEE！」(一40)

さらに、パズーのテ形がすべて命令文に翻訳されていることから、Let me と Please で女性らしさも表現されているといえよう。拙稿 (2021) では、『千と千尋の神隠し』においてクダサイ形を多用する千尋のキャラクターが Please で表現されていたが、本稿のシータやサツキの結果と併せると、千尋の使用する Please にも弱さが表現されていると考えられ、英語翻訳においては、弱さを持つヒロイン像が Let me と Please に表現されるといえよう¹³⁾。他方、子供というキャラクターは、行為要求表現の英語翻訳において表現されていないという結果となった。

3. 2 オ+連用形とナ形の翻訳

オ+連用形は老人、ナ形は強い女性を表現していたことから、『天空の城ラピュタ』のポムじいさんとドーラの使用をそれぞれ確認する。

まず、オ+連用形については、ポムじいさんの用例が命令文で訳されていることから、老人らしさが表現されなくなっているといえる。拙稿 (2021) において、釜爺のキャラクターが翻訳では表現されていないことを指摘したが、ポムじいさんにおいても同様の結果となった。山口治彦 (2007) では、英語の役割語の例として『ハリー・ポッター』シリーズのハグリッドが

西部地方の方言を使用していること、ドビーが一人称と二人称を三人称化することをあげているが、ダンブルドアについての言及はない。本稿の結果と併せると、英語においては老人というキャラクターを表現する行為要求表現は存在しないと考えられる。

次に、ナ形については、ドーラの使用を確認する。ドーラのナ形は、基本的に命令文に翻訳されている。オ+連用形においても命令形が基本となっていることから、英語においては、命令形とオ+連用形、ナ形の区別がないといえよう。

3. 3 クダサイ形とクレ形とオクレ形の翻訳

主要な登場人物が使用するクダサイ形・クレ形・オクレ形の翻訳をまとめると、表11になる。

表11 クダサイ形とクレ形とオクレ形の翻訳

	ラピュタ		トトロ			もののけ姫		
	パズー	ムスカ	サツキ	おばあさん	お父さん	サン	エボシ	アシタカ
クダサイ形	Please	命令文 Please	平叙文 命令文 Please 疑問文	/	/	/	/	平叙文
クレ形	命令文	命令文	/	命令文	命令文	/	/	平叙文 命令文 Let Please 疑問文 Will
オクレ形	/	/	/	Who	/	平叙文	平叙文 Can	Will

まず、クダサイ形については、Please が特徴であり、拙稿（2021）で確認した『千と千尋の神隠し』と同様の結果となった。次に、クレ形については、アシタカのみさまざまな形式の使用が確認できる。アシタカの命令形の翻訳を確認すると、命令文に訳されることが多く、その他に平叙文、Don't、Ø が確認でき、クレ形の特徴は、Let、Please、疑問文、Will といえる。以下がその用例である。

(27) 乙事主に対して「乙事主 山犬の姫を かえしてくれ サンはどこだ」(五42)

「O MIGHTY LORD, LET ME HAVE THE GIRL, I BEG OF YOU.
PLEASE LET HER GO…」(五40)

(28) 神に対して「荒ぶる 山の神々よ 聞いてくれ」(三158)

「GODS OF THE MOUNTAIN, PLEASE LISTEN TO ME…」(三156)

(29) 山犬に対して「サンにこれを 渡してくれ」(四57)

「WILL YOU PLEASE GIVE THIS TO SAN FOR ME ?」(四55)

(30) トキに対して「おトキさん 私も踏ませて くれ」(二136)

「GOOD EVENING. IS IT ALL RIGHT IF I WORK THE BELLOW FOR A WHILE ?」(二134)

長谷川潔(1976:188)には、年長者に対しては命令形よりも Please + 動詞の原形を使うとされており、本稿で扱った三作品においては、神に対して Let me や Please が使われている。最後に、オクレ形については、命令文に訳された例がないことが特徴である。これは、オクレ形が命令ではなく依頼と認識されたからだと考えられる。

3. 4 禁止表現の翻訳

主要な登場人物が使用する禁止表現の翻訳をまとめると、表12になる。

表12 禁止表現の翻訳

	ラピュタ				トトロ		もののけ姫		
	シータ	ドーラ	パズー	ムスカ	サツキ	おばあさん	サン	エポシ	アシタカ
ダメ形	命令文 Don't	/	/	/	命令文 疑問文	/	平叙文 Please	/	/
ナイ形	/	Don't	/	/	/	Don't	/	Let	平叙文
ナ形	/	Don't	平叙文	Don't ∅	/	/	命令文 ∅	平叙文 否定文 命令文	命令文 Don't Let

全体として、禁止表現は Don't に翻訳されることが多く、日本語にみられた性差も確認できない。『もののけ姫』の英語翻訳では、ダメ形とナイ形が弱い禁止表現、ナ形が強い禁止表現と意識されているといえそうであるものの、それぞれがキャラクター言語として翻訳されるとまではいえない。

3. 5 タマエ形の翻訳

キャラクター言語としては、ムスカの使用するタマエ形も特徴といえるため、ムスカの使用するタマエ形がどのように翻訳されているかを確認すると、多くが命令文で翻訳され、その他

に平叙文が2例、Don'tが1例みられるのみであった。表2で確認したとおり、ムスカは命令形をもっとも多く使用しているため、命令形がどのように翻訳されているかを確認すると、多くが命令文で翻訳され、その他に平叙文が1例、Øが2例みられるのみであった。このことから、命令形とタマエ形の訳に差はないといえ、英語翻訳において、タマエ形に相当するキャラクター言語は存在しないことになる。

4. おわりに

以上、本稿では、まず『天空の城ラピュタ』『となりのトトロ』『もののけ姫』にみられる行為要求表現に注目して、作品内に使用される日本語の行為要求表現を整理した。作品を特徴づける使用方法としては、「ヒーローの旅」に分類される作品には命令形の多用がみられること、人間と神とが共存する作品では文語文やオクレ形が使用されることが示された。

キャラクター言語としては、女性が使用する命令形には強さが、テ形には弱さが表現されていることが示された。また、テ形は子供というキャラクターも表現しており、対照的にオ+連用形とナ形が老人というキャラクターを表現していた。禁止表現では、ダメ形が女性キャラクター、ナイ形・ナ形が男性キャラクターを表現しており、ダメ形・ナイ形・ナ形すべてを使用することで〈男性語〉と〈女性語〉を使い分ける「女のヒーロー」が表現されていた。

次に、キャラクター言語として使用されている行為要求表現が、どのような英語表現で翻訳されているかを確認すると、拙稿(2021)で確認したとおり、日本語での命令形の多用によって表現されるキャラクターを、英語での命令文の多用で表現することは不可能であることが示された。ただし、テ形の翻訳においては、Let me と Please の使用で女性の弱さが表現されており、命令文との差によってヒロイン像が表現されていると考えられた。一方で、日本語では子供と老人のキャラクター言語として行為要求表現が使い分けられていたが、英語翻訳において年齢の差は確認できなかった。さらに、禁止表現の翻訳においても使用差はみられず、先行研究で指摘されているとおり(山口(2007))、英語においては役割語の生産性が低いことが示された。しかしながら、役割語が英語でまったく表現されないのではない。本稿では、行為要求表現の使い分けによって、キャラクターが表現されている様子を示すことができたのではないだろうか。

注

- 1) 1984年に公開された『風の谷のナウシカ』と1992年に公開された『紅の豚』は英語版のフィルムコミックがないこと、1995年に公開された『On Your Mark』は上映時間が6分48秒と短くアニメージュコミック

クがないことから除外した。

- 2) 徳間書店発行のアニメージュコミックススペシャル『天空の城ラピュタ』全4巻(1986年)を使用した。英語版は、VIZ Media発行のフィルムコミック『CASTLE IN THE SKY』全4巻(2003年・Yuji Oniki訳)を使用した。
- 3) 徳間書店発行のアニメージュコミックススペシャル『となりのトトロ』全4巻(1988年)を使用した。英語版は、VIZ発行のフィルムコミック『MY NEIGHBOR TOTORO』全4巻(2004-2005年・Jim Hubbert訳・Film Comic AdaptationはYuji Oniki)を使用した。
- 4) 徳間書店発行のアニメージュコミックススペシャル『もののけ姫』全5巻(2000年)を使用した。英語版は、VIZ Media発行のフィルムコミック『PRINCESS MONONOKE』全5巻(2006-2007年・翻訳者不明・Film Comic AdaptationはYuji Oniki)を使用した。
- 5) 仁田(1999)では、「働きかけの表現」とされている。仁田(1999:260-261)では、「働きかけ」といった言語行動をその語彙的意義として有する動詞(たとえば「命ズル、願ウ、頼ム」など)が文末に来ることによって、「働きかけ」の文を形成しているものがある」としているが、「お願いします」や「後を頼む」などのような実際の行為を特定しづらいものは、本稿では除外した。
- 6) 引用の鉤括弧は吹き出しと対応させ、括弧内に巻数を漢数字で、ページ数を算用数字で示した。総ルビであるため、ルビは引用していない。翻訳は徳間書店のコミックと対応する吹き出しを確認した。台詞が対応しない場合は、対応する台詞を前後の吹き出しから導き出した。すべて大文字で書かれているため、大文字で引用した。
- 7) ウ形について、益岡・田窪(1992:125)は「動詞意志形はまた、共同動作の申し出(勧誘)を表すことができる」とし、仁田(1999:261)は「動きの主体や働きを実現すべく希望されている主体が、二人称者であることによって、「働きかけ」の文に近い機能を果たすことになる」としている。本稿では、これらを相手に何らかの行為を要求するものとする。
- 8) 沖(2014:15)では、「日本語談話は、成員が、[事態] [意識] 《内容》//表現//の四層に同時に注目することで運用されている」とする。
- 9) 小林(2021:33)では、周辺<中央の順で「貸せ」<「貸してくれ」<「貸してくれるか」<「貸してもらえるか」になることをあげ、「中央寄りで新しい形式(不等号の開いた側)ほど配慮性に富むと考えられる」とする。
- 10) おばあさんは、「わし」と打消しの助動詞「ん」を使う点で<老人語>と共通するが、その他の訛音と合わせて考えると<田舎者>を表現しており、強い女性とまではいえない。
- 11) ヒイ様からアシタカに対して「健やかにあれ」(一93)「WHATEVER COMES TO PASS NOW, YOU ARE DEAD TO US FOREVER.」(一91)など。
- 12) エボシから石火矢策に対して「引き寄せろ」(四7)「A LITTLE BIT CLOSER!」(四5)など。
- 13) 高橋(2017:24-25)には、letがmeと共起することを好むことが指摘され、「話し手の利益のために用いられる場合が多い」とされるが、本稿でみたような弱さへの言及はない。

引用文献

- 沖裕子「談話論からみた命令表現」『日本語学』（明治書院）33（4）、2014年、14-22頁。
- 金水敏「言語—日本語から見たマンガ・アニメ」山田奨治編著『マンガ・アニメで論文・レポートを書く—「好き」を学問にする方法—』ミネルヴァ書房、2017年、239-262頁。
- 金水敏「アニメキャラクターの言葉」田中牧郎編『シリーズ〈日本語の語彙〉7 現代の語彙—男女平等の時代—』朝倉書店、2019年、72-83頁。
- 小林隆「依頼・受託の言語行動—配慮性と主観性の観点から—」小林隆編『全国調査による言語行動の方言学』ひつじ書房、2021年、29-60頁。
- 小林美恵子「職場における命令・依頼表現—ジェンダー的視点から見ると—」『ことば』（現代日本語研究会）24、2003年、13-25頁。
- 佐藤里美「依頼文—してくれ、してください—」『ことばの科学』（むぎ書房）5、1992年、109-174頁。
- 高橋英光『英語の命令文—神話と現実—』くろしお出版、2017年。
- 高橋美奈子「家族の談話にみられる行為要求表現の現在」現代日本語研究会 遠藤織枝・小林美恵子・佐竹久仁子・高橋美奈子編『談話資料 日常生活のことば』ひつじ書房、2016年、215-237頁。
- 仁田義雄『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房、1999年（増補）。
- 長谷川潔『日本語からみた英語』サイマル出版会、1976年。
- 藤本真理子「たまえ」金水敏編『〈役割語〉小辞典』研究社、2014年、120-122頁。
- 益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法—改訂版—』くろしお出版、1992年。
- 村上三寿「命令文—しろ、しなさい—」『ことばの科学』（むぎ書房）6、1993年、67-115頁。
- 安井寿枝「アニメキャラクターからみる翻訳についての一考察—英語版『千と千尋の神隠し』をケーススタディとして—」『研究論集』（関西外国語大学）第114号、2021年、39-58頁。
- 山口治彦「役割語の個性と普遍性—日英の対照を通して—」金水敏編『役割語研究の地平』くろしお出版、2007年、9-25頁。
- 米井力也「『風の谷のナウシカ』と役割語—映像翻訳論覚書—」金水敏編『役割語研究の展開』くろしお出版、2011年、173-180頁。

引用ウェブサイト

スタジオジブリ公式ホームページ <https://www.ghibli.jp/>（最終閲覧日2022年9月10日）。

（やすい・かずえ 外国語学部講師）